



発信 No.2019-39
 2019年11月19日
 学校法人 大正大学

「実証史学」大正大学の歴史学を体感 令和元年度 大正大学史學會大会を開催

大正大学(学長：高橋秀裕、所在地：東京都豊島区)は、文学部歴史学科が主催する「史學會大会」を開催します。大正大学史學會は、歴史学科の教員と学生が主体の学会で、史学に関する研究とその発展を目的とし、年に一度史學會大会にて研究の成果発表や講演を行うほか、『鴨台史学』という雑誌を刊行しています。歴史学科は日本史コース、東洋史コース、文化財・考古学コースの3コースに分かれていますが、史學會大会では一堂に会しお互いの成果を発表し合います。

令和元年度 大正大学史學會大会

○日時 令和元年11月23日(土) 14:00より
 ○会場 大正大学 5号館5階 551教室

○受付 13:30～
 ○研究発表 14:10～15:10

隋唐の高句麗遠征について
 大学院史学専攻修士課程1年 田中 靖子氏

秀吉死去後の政局における細川氏の動向
 歴史学科副手 谷橋 啓太氏

○講演 15:30～17:00
 石器の実験痕跡研究
 歴史学科教授 御堂島 正先生
※タイトルは仮題であり、変更される場合があります。

○総会 17:00～17:15

歴史学科



昨年度開催された同大会の様子

【開催概要】

日時：令和元年11月23日(土) 14:10～(受付13:30～)

場所：大正大学 巣鴨キャンパス5号館5階 551教室

〒170-8470 東京都豊島区西巣鴨 3-20-1



【タイムスケジュール】

《研究発表》 14:10-15:10

- ・「隋唐の高句麗遠征について」

大学院史学専攻修士課程1年 田中 靖子

- ・「秀吉死去後の政局における細川氏の動向」

歴史学科副手 谷橋 啓太

《講演》 15:30-17:00

- ・石器の実験痕跡研究

歴史学科教授 御堂島 正

《総会》 17:00-17:15

《参加方法》 自由参加 ※申し込み不要

【講演のポイント】

「石器の実験痕跡」とは、石器に残る様々な痕跡から、人々の活動を復元する方法のこと。石器に残された微細な痕跡という証拠をもとに、その時代を生きた人々の活動を復元することで、過去に関するより良い理解が可能となります。痕跡から人々の活動を復元する方法について、最新の研究状況を知ることができます。

【講演講師プロフィール】

御堂島 正（みどうしま ただし）

大正大学 文学部歴史学科 文化財・考古学コース 教授

専門：考古学（文学博士）

主に旧石器～縄文時代を対象に、実験痕跡研究という手法を用いた研究を行う。現在の静止した状態にある考古資料から、過去の人間の行動を復元するため、様々な実験を行って行動と痕跡との関係を捉え、それによって考古資料を解釈・理解することを目指している。

■取材に関するお問い合わせ

大正大学 広報課 長野

電話：03-5394-3025（直通）FAX：03-5394-3068

E-mail：kouhou@mail.tais.ac.jp